

## 第36回テーマ：六甲山を楽しもう



六甲山最高峰でブナを植樹

## 講演内容

- ①山とともに六十余年
- ②「ブナを植える会」を  
支えて25年
- ③六甲山への思いは健在、  
これからの六甲山を考える

講師：桑田 結さん  
くわた むすぶ

## プロフィール

1935年生まれ、神戸市出身。関西大学法学部卒業。関西大学山岳部。1980年「ブナを植える会」設立時に入会、1998年第5代目会長に就任。

実施日：平成18年3月18日（土）  
午後1時～3時45分  
場 所：六甲山YMCA 里見ホール

## 桑田さんは自然に関わる名東ね役

当日は季節はずれの小雪がちらつきました。今回は六甲山の麓で暮らして70年になる、桑田結さんを講師にお招きしました。桑田さんは「ブナを植える会」の第5代目会長で、日本山岳会の関西支部にも所属され、登山や自然環境などの東ね役として活躍されています。幼少期から現在にわたる六甲山との関わりや今後について熱く語っていただきました。



桑田さんのブナへの思いに耳を傾ける

## 「ブナを植える会」は環境保全の代名詞

「ブナを植える会」は、兵庫県の自然環境の保護・育成を目的として森づくりに関わっている代表的な市民団体です。会員は350名で、但馬地方や六甲山を中心にブナの植樹や育樹の活動をされています。桑田さんは設立時のメンバーで、25年間にわたる様々な活動についてご紹介いただきました。ブナは育ちにくく、成長も遅い樹木だそうです。数十年後のことを考えて植樹する息の長い活動に感心しました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館  
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

## 六甲山を生かすアイデアも豊か

講演の後、恒例の焼き芋の他に、ケーキやアルコールなど沢山の差し入れをいただきました。みんなで楽しく懇親し、盛り上がりました。

交流会では当会の活動報告をしました。桑田さんから六甲山上を東部・中央部・西部の3つに分けてそれぞれを楽しむ構想もお話され、六甲山を生かす議論で賑わいました。

## 盛りだくさんの3周年記念

平成17年度最後の市民セミナーも盛況に終わり、36回の継続開催を達成しました。新しい参加者が加わり大変充実しました。

交流会で挙がったアイデアのいくつかの実現を検討し、六甲山を楽しめる環境を整備していきたいと思います。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

## 参加の感想 平林 英二さん

セミナーにはじめて参加しました。ブナ育樹の話はもちろん大変興味深く伺いましたが、集っている皆さんが六甲山に対してそれぞれ大変熱い思いを抱かれ、大切にされていることに感銘を受けました。「神戸に住まいはじめた新しい世代が、自然散策などで六甲山の環境に気軽に親しみ、豊かさを体感して欲しい」という皆さんの願いの実現に向けて、自分も少しでもご協力差し上げたいと思います。  
(人と防災未来センター 企画ディレクター)

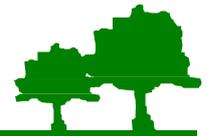


## 【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



# テーマ：六甲山を楽しもう



## 第36回市民セミナーの流れ

### 市民セミナー

1. 昼食懇親：12:30～13:05
2. あいさつ：13:05～13:15
3. 講演：13:15～14:50
4. 質疑応答：15:10～15:30
5. 懇談会：15:30～15:50

### 講演

- ①山とともに六十余年
- ②「ブナを植える会」を支えて25年
- ③六甲山への思いは健在、  
これからの六甲山を考える



ブナを植える会の活動紹介パネル

## 講演の挨拶(桑田結さん)

「ブナを植える会」の第5代会長を務めています。「活用する会」の幹事も務めています。今年で71歳になります。三宮辺りで生まれ、3歳から六甲山の洗礼を受けて以来、約70年六甲山に親しんでいます。大学で山岳部に入り、昭和28年頃から50年間、登山をしています。



桑田 結さん

## 講演内容

### 1. 登山生活50年

#### ■登山で鍛えた体力と精神力

登山を始めた当時は化学繊維もなく、装備が悪かった。毎日が辛抱の連続のような山登りで、苦しみながらやってきた。インスタント食品が無い時代で、食料は前もって洗った米か、ビスケットだった。生鮮食料品もなく、耐乏生活の極で、早く山を降りないと栄養失調で死んでしまう、というような山登りだった。

大学3年のときには厳冬期に40日かけて北アルプスの稜線を縦走した。今でもこの記録は破られていない。山での経験から自然の厳しい環境に耐える体力と精神力ができたと思っている。

#### ■ブナの存在は知っていたが・・・

山登りを通じて、ブナの木の存在は知っていたが、特に気に留めていなかった。だが山肌一面、ブナを切って建材のために造林するという場面にたびたび遭遇していた。当時は反対運動はまだなかった。

普通ハイキングではブナ林まで登ってこないで、雑木林を切られて、針葉樹が植えられていることがわからない。山登りでの経験が、今でも植樹地を見るとき役に立っていると思う。

### 2. ブナを植える会

#### ■ブナの会は25年前に発足

ブナを植える会は今から25年前に結成された。スキーの遭難事故の慰霊に鉢伏高原に行った岳友が、山にブナがほとんどなくなっているのを目にした。「『ブナを切るな』と言っても手遅れだから、それなら植えていこう」ということでブナを植える会が結成された。



ブナの若葉

県の林務課に行って交渉し、鉢伏高原に植樹することになった。1000本のブナの苗木を購入して植樹した。

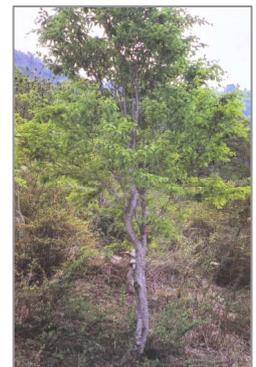
#### ■ブナの会の植樹活動

活動は但馬地方を中心に進めている。会員は現在350名だ。昔と比べると、環境に対する一般の方の関心も高くなり、自然保護団体は一層頑張らないといけない。現在は油コブシの登山口でHAT-Jとタイアップした植樹活動なども展開している。

名称は「ブナを植える会」だが、ブナだけでなく、落葉広葉樹であれば良いと思っている。ブナは存在感がある木で、みんなに通じやすい。

#### ■ブナは森のダム

ブナは日本の脊梁山脈の頂上部分、標高2000m前後が植生に適した高さだ。ブナは根が幅広く張って、根自身に保水力がある。落ち葉は積み重なって腐葉土に変化し、水を蓄えることができる。森のダムという呼び名もある。



植樹後のブナ

#### ■植樹は息の長い作業

ブナは育ちにくい上に、成長が遅い。最初に植えた1000本のうち、50本ぐらいいしか育たなかった。今は苗畑で育てて、60cm程度に生長してから植樹している。夏場の下草刈りも欠かせない。広葉樹を植えて育てるのは本当に大変だ。

20年以上前に植樹したブナでも、7～8m程度の高さになっているだけで、花も咲かせていない。ブナを植えた人は、その木が花や実をつけるのを見ずに亡くなっていく。木を植えるのは本当に息の長い大変な作業だ。サクラを植えて4、5年で花見ができる感覚とは違う。数10年後のことを考えて植樹する計画性も重要だ。



最初の植樹（1980年）



2005年の様子

■植樹が地域活性にもつながっている

植樹では農山村の住民との交流も一つのテーマとしている。最初は「緑がいっぱいのところに、何でブナを植えるんだ」と、怪訝な顔をされた。次第に広葉樹の重要性を理解していただくことができ、2、3年経つと地域の方と一緒に活動をするようになった。ブナの植樹の際には模擬店や餅つきが行われる。さながら地域の運動会で、地域の活性化にもつながっている。

■六甲山のブナ

平成5年に六甲山のブナが実をつけた。300個ほど拾って森林植物園の苗畑で育てた。半分ほどは生長し、紅葉谷や六甲山の最高峰周辺に植樹した。現在六甲山のブナは全部で130本程度が確認されている。

ブナは毎年実をつけず、早いサイクルでは3年周期ぐらいで実をつける。種がない「シイナ」だけのこともよくある。六甲山では平成5年以降、種ができていない。そろそろ種ができて良い頃だが、なかなか思うようにいかない。



ブナの発芽

3. これからの六甲山

六甲山は大まかに3つの区域に分かれる。最高峰から東は登山の区域、最高峰から摩耶山までのレジャーや自然を楽しむ区域、摩耶山から西は自然が豊かで教育施設のある地域だ。中央部は市民が自由に楽しめる地域であってほしい。

◆桑田さんからの提案

公共の広場やハイキングコース：六甲山上には公共的な広場がほとんどなく、後は私有地と道路ばかりだ。子供たちがわあわあ言って遊べる広場がない。公衆トイレも六甲山に少ない。ファミリー向けに1日遊べるハイキングコースが必要だ。

自然観察のフィールド：きれいな花があると聞くと、すぐちぎって持って帰る人がいる。できればそういうことなしに、観察する気持ちが欲しい。自然保護センターの北側の散策路を「自然観察フィールド」として活用してみたい。本当に自然のままを観察できるようなフィールドが欲しい。

ボランティア活動のフィールド：六甲山上に広場や事務所のような、人が集まれる場所が欲しい。ボランティアの人や、自然に親しむために六甲山に登ってきた人たちの憩える場所も必要だ。

質疑応答

◆六甲山のブナの植生範囲は増えているの？：下に笹があると新しい木が育たず、発芽しても2年目に消えてしまう。自然の幼木は無いようなので今のまま行くと減っていく。

◆ブナはどのぐらいの大きさになるの？：村岡町には直径1m以上、高さ約20mのブナがある。六甲山の紅葉谷にある次郎ブナは直径80cmか1m程度あり、樹齢は200年以上だと思う。

まとめ（桑田さん）

「六甲山自然保護センターを活用する会」の活動は、自然保護センターだけにとらわれず、「六甲山をどないするんですか」という大きな捉え方で、今後の活動を展開する必要があると思います。

事務局より

「ブナを植えた人は、花や実をつけるのを見ずに亡くなっていく。」ひとりの一生の規模を越えて、数十年先の子の代、孫の代を考えた活動に感銘を受けました。市民セミナーの活動の持続や、自然観察フィールドづくりに注力したいと思います。



3周年を記念して、全員で記念撮影

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ
- ・参考資料（2種）
- ・ブナを植える会の活動紹介パネル
- ・創立25周年記念誌、測樹データ集計表ほか



記念誌や会報など

ブナを植える会

〒652-0884 神戸市兵庫区和田山通 1-2-25  
D-102 (有) 桑田製作所内 桑田結  
TEL : 078-652-7624 FAX : 078-652-7625  
<http://www.bunawouerukai.jp/>

◆参加者の声～アンケートより～

- ・今とは違う昔の登山の話がおもしろかった。
- ・植樹するという作業がいかにか将来を見据えた遠大なものであるかを実感した。
- ・ブナの特徴がよくわかった。
- ・懇親会は年代の違う人と交流ができて良かった。

◆参加者：28名（順不同・敬称略）

桑田 結	村上 定広	浅井 審一	浅井 康枝
泉 美代子	八木 浄	福永 一登	武野 真也
七目木修一	小野 涼子	山田 良雄	森澤 富江
宇佐見勢都子	岡 敏明	小笠原晋子	山本 茂
板脇 道雄	里山 文英	向山三年子	平林 英二
兼貞 力	久保 順一	久保まゆみ	田路 弘
堂馬 英二	藤井宏一郎	堂馬 佑太	菖蒲 美枝